

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 26 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23510323

研究課題名(和文) フィリピンのイスラーム書の比較研究

研究課題名(英文) Comparative Study of Islamic Manuscripts and Books in the Philippines

研究代表者

川島 緑 (Kawashima, Midori)

上智大学・総合グローバル学部・教授

研究者番号：50264700

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：南部フィリピンを中心に写本(複製)、刊本、計262点のイスラーム書を収集し、解題付カタログや解説を英文で刊行し、研究の基盤整備を行った。これらの資料に基づいて、19世紀から20世紀半ばまでは、アラビア語とマレー語のイスラーム書古典の写本が支配的であったのに対し、20世紀半ば以降はアラビア語と現地語イラン語の刊本が主流となり、その内容や発行地も多様化したことを明らかにした。イラン語アラビア文字表記とラテン文字表記は併存している。また、19世紀のミンダナオのウラマーが、東南アジア・マレー語圏のウラマーのネットワークに参加してマレー語で交流し、さらに中東とつながっていたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：We digitized and collected a total of 262 Islamic manuscripts and books from Mindanao, and published a catalogue and several papers dealing with these materials. From the 19th to the mid-20th century, ulama in Mindanao were using Arabic and Malay manuscripts in studying Islam, most of which were copies of classic works on Islam. Since around the mid-20th century, however, such manuscripts were replaced by printed books in Arabic and Iranon. Topics dealt with in these books are diverse, and some are published in Saudi Arabia. Although most contemporary Maranaos use the Latin script in writing their language, ulama tend to use the Arabic script in writing Islamic books in Iranon. Hence, we can find Iranon Islamic books in both scripts. Furthermore, it is evident from these manuscripts that some ulama in Mindanao in the 19th century were firmly integrated in the ulama's network in the Malay world, communicating with their counterparts in Southeast Asia and the Middle East.

研究分野：東南アジア史

キーワード：イスラーム フィリピン 東南アジア ミンダナオ ネットワーク ウラマー 出版 写本

1. 研究開始当初の背景

1990年代以降、東南アジアと中東をつなぐウラマーのネットワークに関する研究が相次いで発表され、ウラマーの交流や知的活動の研究が脚光を浴びている。しかし、このようなネットワークへのフィリピンのウラマーの参加に関する実証的研究が欠如している。その原因の一つは、ウラマー自身が作成した文献資料の入手が困難な点にある。筆者は1994年以来、ミンダナオ島南ラナオ州で継続的に現地調査を行い、その過程で現地のウラマーと良好な関係を培ってきた。近年、数人のウラマーが所蔵する貴重なイスラーム書を見せていただくことができた。そこで、所有者の許可を得てそれらを複写し、目録を作成するとともに、これらの資料にもとづいてフィリピンのウラマーの知的活動とネットワークに関する研究を行うことを企画した。

2. 研究の目的

東南アジアと中東をつなぐウラマーの人的、思想的ネットワークにおいてフィリピンが占める位置を明らかにすることを最終目標とする。そのための基礎作業として19世紀から現在までフィリピンで作成されたり、流通したイスラーム書(写本、刊本)を可能な限り網羅的に収集し、目録を作成する。さらに、それらの著者・筆記者、作成・出版の状況、流通関係者、言語・文字表記、内容等を検討し、東南アジアの同様のイスラーム書と比較検討する。それを通じて、フィリピンのイスラーム書の特徴を明らかにし、フィリピンのウラマーの人的、思想的ネットワークの実態を明らかにする。

3. 研究の方法

- (1) フィリピン、ミンダナオ島マラウィ市、コタバト市、マニラ首都圏で現地調査を実施し、写本の複製(デジタル化、一部はマイクロフィルム撮影)、刊本の収集を行う。
- (2) 東南アジア・イスラーム文献学者、および、現地研究者の協力を得て、収集したイスラーム書の目録を作成し、資料解説を執筆する。
- (3) イスラーム書の内容を検討し、東南アジアのイスラーム書と比較検討する。
- (4) 文献資料と聞き取り調査にもとづいて、ウラマーの人的、思想的ネットワークを明らかにする。

4. 研究成果

(1) フィリピンのイスラーム書研究の基盤整備: フィリピンのマラウィ市、コタバト市、マニラ首都圏等で合計262点のイスラーム書(内訳は表1参照)を収集し、資料紹介、課題付きカタログ等計3点の研究成果物(雑誌論文、図書)を英文で刊行した。さらに写本の保存や研究に対する現地の人々の関心を高めることと、写本調査の基礎的知識や技術を伝授することを目的として、ミンダナオ国立大学マラウィ校歴史学部、同学イリガ

ン工科学院歴史学部、および、海外研究協力者の協力を得て、学部学生、大学院生、教員を対象として合計3回、「ミンダナオ写本ワークショップ」を開催し、本プロジェクトの成果を発表し、写本調査の実習を行った。

サンボアンガ市とマレーシア・サバ州のフィリピン・ムスリム・コミュニティでの資料収集は、現地の情勢に安全面で不安があるため中止した。今後は、現地在住研究者と連携し、可能な範囲でこれらの地域のイスラーム書の収集や調査を進めていきたい。

表1. 収集したイスラーム書の種類

使用文字	アラビア文字			ラテン文字			計
	原本	複製	計	原本	複製	計	
写本	0	68	68	0	0	0	68
刊本	44	51	95	97	2	99	194
計	44	119	163	97	2	99	262

(2) フィリピンのイスラーム書の全体的傾向: 写本は日付のないものが多く作成時期の特定が困難であるが、所有者への聞き取り調査の結果、大多数が19世紀初頭から20世紀半ばまでに作成されたと推定される。刊本は、1930年代初頭、アメリカ人プロテスタント伝道者によって識字教育の一環としてラテン文字表記で刊行された。同時期にミンダナオのウラマーがシンガポールでアラビア文字表記でイスラーム書を刊行し、二つの表記のイスラーム書が併存することとなった。1960年代にはウラマーがイスラーム学校生徒を主な読者としてアラビア文字表記イスラーム書出版活動を行った。同時期に、西洋式教育を受けた青年に向けて、ラテン文字イスラーム書が出版されるようになった。写本ではアラビア語とマレー語が主に用いられ、アラビア語古典の原文にマレー語訳を付したものが多く。写本が主流であった19世紀から20世紀半ばにおいては、イスラームの知識は主としてマレー語訳によってミンダナオに伝えられていたのである。これに対し刊本で主に用いられる言語はイラノン語(相互に理解可能なマラナオ語、マギンダナオ語、狭義のイラノン語の3言語の総称)とアラビア語である。フィリピン語や英語で書かれたものもある(表2、3参照)。写本の時代に主流であったマレー語は、刊本ではまったく使用されていない。このことは20世紀半ばを境として、イスラーム知識伝達の言語が、アラビア語+マレー語から、アラビア語+イラノン語に入れ替わったことを示している。刊本の出版地はマラウィ市が圧倒的に多い。これは、筆者の調査拠点が同市であったため、同市で発行されたイスラーム書を網羅的に収集できたことが影響している。しかし、1960年代末、マラウィ市にあるカーミロル・イス

ラーム学院の教員グループが、イスラームの価値に反しない娯楽をムスリム青少年に提供するために、アラビア語イスラーム物語のイラン語への翻訳・出版活動に組織的に取り組んだことが大きく影響している。イスラーム学校が集中している同市は、今日でもイラン語イスラーム書出版活動の中心地となっている。また、サウジアラビアでは、同国居住フィリピン人へのイスラーム伝道を目的の一つとして、フィリピン語やイラン語のイスラーム書が出版されている（表4）。

表2．写本・刊本の言語別点数

主要な使用言語	写本	刊本アラビア文字	刊本ラテン文字	合計
Ar.	13	14	1	28
Ar. Ml.	36			36
Ml.	8			8
Ar. Ml. Jw.	1			1
Ar. Ml. Ir.	4			4
Ml. Ir.	2			2
Ir.	2	45	17	64
Ar. Ir.	1	34	50	85
Ar. Ir. En.			4	4
Ar. Tw.	1	1		2
Ar. Fl.			9	9
Fl.			11	11
Ar. En.		1	1	2
En.			6	6
合計	68	95	99	262

Ar.アラビア語、En. 英語、Fl.フィリピン語、Ir.イラン語、Jw. ジャワ語、Ml.マレー語、Tw.タウスグ語

表3．使用言語の比率

言語 <sup>(1)</sup>	写本	刊本アラビア文字	刊本ラテン文字
アラビア語	82%	53%	66%
マレー語	75%	0%	0%
ジャワ語	1%	0%	0%
イラン語	13%	83%	72%
タウスグ語	1%	1%	0%
フィリピン語	0%	0%	20%
英語	0%	1%	11%

(1) 主な使用言語に含まれる言語

表4．刊本の発行地

発行地	刊本アラビア文字	刊本ラテン文字	合計
フィリピン			
南マナオ州			
マニラ市	70	47	117
他の町	6		6
町名不明	9		9
コバト市	2	11	13
マニラ首都圏	1	6	7
北マナオ州		3	3
シンガポール	1		1
エジプト、カイロ	1		1
サウジアラビア			
リヤド	1	9	10
その他		3	3
不明	4	20	24
合計	95	99	194

写本の内容は、クルアーン、クルアーン読誦法、イスラーム神秘主義、イスラーム神学、礼拝や儀礼の手引書、イスラーム法学、暦法などの古典が多く、アラビア文字の入門書、様々な祈禱のことは、護符なども含まれている。刊本には、クルアーンのイラン語注釈書や多数のイスラーム説話が含まれている。また、フィリピンのイスラーム史、ウラマーによるフィリピン・ムスリム社会の評論など、独創性を発揮した作品もあり、多様化している。フィリピンのイスラーム書は19世紀以降今日まで、このような変化を遂げた。

(3) 東南アジアのイスラーム書との比較、ウラマーのネットワーク：これまでに確認できた写本のなかでもっとも古いと思われるものは、18世紀後半、ミンダナオ出身ウラマーがアチェで執筆したイスラーム書である。19世紀初めにマッカ巡礼に行き、旅の途中、数点のイスラーム書を筆写したウラマーもいる。写本のテキストから、ミンダナオ出身のウラマーが旅の過程でマレー語を習得し、東南アジアのムスリムとマレー語で交流していたことが読み取れる。他の写本もほとんどすべて、マレー世界に広く普及しているイスラーム書である。また、シャッターリー教団やナクシュバンディー教団など、スーフイズムの師弟関係の系譜を記した写本もある。以上から、ミンダナオの一部のウラマーは、東南アジアと中東をつなぐウラマーのネットワークに積極的に参加し、その一部を構成していたことが確認できる(雑誌論文、図書、)。

(4) 成果の位置づけとインパクト、今後の展望：本研究は、これまでほとんど手がつけられていなかったフィリピンのウラマーに関する先駆的研究として位置づけられる。私的に保存され、これまで研究に利用されてこなかった多数の一次資料の目録と解説を英文で刊行することにより、これらの資料を利用可能にし、この分野の研究基盤確立に大きく貢献している。筆者はこの研究テーマに関連して、4つの国際会議・国際シンポジウムに招待されて報告を行い(学会発表)これらの報告にもとづく英文学術論文は査読付国際学術雑誌に掲載が決定している(雑誌論文)また、刊行された研究成果のひとつ(図書)は、英文学術書(*Documents on Ottoman-Southeast Asian Relations*, Ismail Hakki Kadi and Andrew Peacock, eds., Leiden : Brill, 2015-forthcoming)に再編集の上収録が予定されている。これらは、この研究が国際的に注目されつつあることを示している。多言語の写本・刊本の研究は多大な労力と膨大な時間を要する。しかし、将来、この研究を大きく開花させるためには、着実な資料研究を欠かすことはできない。今後も収集した一つ一つの資料を、それらの執筆者と対話しながらじっくり読み込み、他の文献資料や現地調査と組み合わせることで研究を深めるとともに、この研究を通じて形成された海外研究者とのネットワークを活用して、この分野の研究を質・量とも充実させ、さらに発展させていく。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計 3 件)

Kawashima Midori, The Making of an Islamic Narrative of the Philippine Nation-State: Islam and Nationalism in the Writings of Ahmad Bashir. *Studia Islamika*. 査読有(採択決定済) vol.110, no.2, 2015. (forthcoming).

Kawashima Midori and Oman Fathurahman, Islamic Manuscripts of Southern Philippines: A Research Note with Descriptions of Three Manuscripts, *The Journal of Sophia Asian Studies*, 査読有, vol. 29, 2011, 251-267.

川島緑、1950～60年代フィリピンのイスラーム知識人の国家観 —アフマド・バシル著『フィリピン・イスラーム史』を中心に—、*東南アジア—歴史と文化—*, 査読有、40号、2011、5-26.

##### [学会発表](計 7 件)

Kawashima Midori, The Making of an Islamic Narrative of the Philippine Nation-State: Islam and Nationalism in the Writings of Ahmad Bashir, presented at the *Studia Islamika International Conference: Southeast Asian Islam*, “Legacy and New

Interpretation”, held at Syarif Hidayatullah State Islamic University (UIN), Jakarta, on Aug. 14, 2014

Kawashima Midori, *Mindanao Ulama in the 19th Century Malay World: The Journey and Works of Sheik Muhammad Said bin Shafatullah*, presented at the International Seminar on Islamic Area Studies, “Defining Muslims from their Groups, Networks and History. “, held at State Islamic College (STAIN) Jurai Siwo Metro, Lampung, Indonesia, on the Mar. 13, 2014.

Kawashima Midori, *Journey of Mindanao Ulama in the Late 18th to Early 19th Century*, presented at the International Conference, “Muslim Philippine Historiography after Majul”, held at the National Historical Commission of the Philippines, Manila, on Aug. 6, 2013

Kawashima Midori, *The Concept of the State of an Islamic Intellectual in the Philippines during the 1950-60s: History of Islam in the Philippines* by Ahmad Bashir, presented at The Ninth International Conference on the Philippines, held at the Kellogg Center at Michigan State University, East Lansing, Michigan, on Oct. 30, 2012.

Kawashima Midori, *Petition of Hajj Nuño et al., and the Dispatch of an Islamic Missionary from the Ottoman Empire to the Philippines*, presented at the International Workshop “From Anatolia to Aceh: Ottomans, Turks and Southeast Asia”, organized by the British Institute at Ankara, Association of Southeast Asian Studies in the United Kingdom et al., held at IAIN Ar-Raniry, Banda Aceh, Indonesia, on Jan. 12, 2012

Kawashima Midori, *Developing the Study of Manuscripts and Kitabs of Southern Philippines*, a lecture given at the Graduate School of Syarif Hidayatullah State Islamic University (UIN), Jakarta, on Jan. 9, 2012

Kawashima Midori, *Developing Mindanao Manuscript Studies: New Light on the Islamic Intellectuals in the Philippines*, presented at the Symposium in honour of Professor Jan Just Witkam, “Collecting the Muslim World”, held at The Leiden University Centre for the Study of Islam and Society, Leiden, The Netherlands, on Oct. 7, 2011.

##### [図書](計 6 件)

Oman Fathurahman, Kawashima Midori, Ervan Nurtawab, Gallop Annabel, Labi Riwarung et al., Institute of Asian Cultures, Sophia University, *The Library of an Islamic Scholar of Mindanao: The Shaykh Muhammad Said Collection at the Al-Imam As-Saddiq (AS) Library, Marawi City*,

*Philippines: An Annotated Catalogue with Essays*, 2015, (forthcoming)  
Annabel Gallop, Kawashima Midori et al., National Historical Commission of the Philippines, *Muslim Philippine Historiography after Majul*. Manila: National Historical Commission of the Philippines, 2015, (forthcoming)  
Kawashima Midori, Institute of Asian Cultures, Sophia University, *The "White Man's Burden" and the Islamic Movement in the Philippines: The Petition of Zamboanga Muslim Leaders to the Ottoman Empire in 1912*, 2014, 50  
平野健一郎、古田和子、土田哲夫、川村陶子、川島緑他、東京大学出版会、国際文化関係史研究、2013、554  
Kawashima Midori et al., Institute of Asian Cultures, Sophia University, *The Qur'an and Islamic Manuscripts of Mindanao*, 2012, 108  
Sugahara Yumi, Kawashima Midori, et al., Institute of Asian Cultures – Center for Islamic Studies, Sophia University, *Comparative Study of Southeast Asian Kitabs: Papers of the Workshop held at Sophia University, Tokyo, Japan on October 23, 2011*, 2012, 102

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川島 緑 (KAWASHIMA Midori)  
上智大学・総合グローバル学部・教授  
研究者番号：50264700

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：

海外研究協力者

Oman Fathurahman  
Professor, Faculty of Arts and Humanities,  
Syarif Hidayatullah State Islamic University,  
Jakarta, Indonesia.  
Erwan Nurtawab  
Lecturer, Jurai Siwo State Islamic College,  
Lampung, Indonesia.  
Usman Imam Sheik Al-Aman  
President, Ulama Conference of the  
Philippines. (Until June 2014).  
Adam Taib Acmad  
Instructor, Department of History, Mindanao  
State University, Marawi City, Philippines.